

第 4 章 外部評価 ～施策・事業の評価結果

※本章に掲載の各施策・事業等の情報は、平成 24 年度施策評価調査及び事業評価調査から抜粋している。

2 施策「3-4-1 道都札幌を支える交通体系の構築」及び当該施策に関連する事業

(1) 施策の概要

第 3 次札幌市新まちづくり計画に掲げる重点課題の一つ「将来を見据えた魅力ある都市の整備」の取組の一つである当施策は、地域特性に応じた拠点のまちづくりや、公共交通機関を軸とした交通体系の確立、自転車の利用環境の充実などに関する事業を実施している。

このうち、今年度の外部評価の対象とした事項は、公共交通に関連する 11 事業で、平成 24 年度の決算総額で 8,550,434 千円である。

【a.評価対象施策情報】

政策目標	活力みなぎる元気な街			
重点課題	将来を見据えた魅力ある都市の整備			
重点課題にかかる施策の基本方針	超高齢社会の進展や環境への影響に配慮しながら、都市の魅力を高め、持続的に発展していくため、都心や苗穂駅周辺地区など地域特性に応じた拠点のまちづくりを進め、コンパクトシティへの再構築を推進する。また、総合的な交通計画を策定し、公共交通機関を軸とした交通体系の確立を図るとともに、路面電車の延伸、北海道新幹線の札幌延伸、自転車の利用環境の充実などを推進する。			
評価対象施策	3-4-1 道都札幌を支える交通体系の構築			
えがお指標 (評価対象施策関連分)	指標名	現状値 (H22)	実績値 (H23)	目標値 (H26)
	公共交通に対する満足度	45.0%	68.7%	55%
	公共交通の利用者数	107 万人	107 万人	108 万人
評価対象事業の 予算・決算額	平成 24 年度予算額	10,309,011 千円	平成 24 年度決算額	8,550,434 千円

【b.評価対象事業】

事業名	事業の概要	24 年度予算	24 年度決算
SAPICA 導入活用推進費	SAPICA の導入・活用を推進するため、交通事業者への導入補助、行政施設への電子マネー導入を行う。	1,169,000 千円	1,168,863 千円
路面電車延伸推進	今後のまちづくりに活用するため、路面電車の延伸に向け設計や各種検討を推進する。	1,523,000 千円	445,242 千円
パークアンドライド駐車場事業関係	パークアンドライド駐車場整備資金貸付、パークアンドライド駐車場運営費補助。	30,000 千円	23,574 千円
地域公共交通確保維持改善事業費	公共交通事業者が行うバリアフリー化を推進すると共に、地域交通の確保維持改善に関する検討を行う。	8,100 千円	5,907 千円
公共交通ネットワーク確保対策事業	赤字バス路線に対する補助、公共交通利用促進、地域交通計画の策定。	767,500 千円	667,413 千円
総合交通計画一般事務費	総合交通計画部における事務費のほか、バスセンター等の維持管理や公共交通情報提供システム(さっぽろえきバス navi)等の運用保守を行う。	132,045 千円	130,567 千円

(2) ヒアリングの論点・視点

当施策に対するヒアリングの主な論点・視点は、以下のとおり。

■今後どのように SAPICA の普及を図っていくのか

- ・今後、ウィズユーカードから SAPICA に誘導していこうとするのであれば、ウィズユーカードのプレミア相当分（1 万円券の 15%相当分）だけの問題ではないと思うが、利用者にとっての SAPICA のメリットがないとなかなかウィズユーカードから移行しない。どのようにして SAPICA の普及を図っていくかが大きな課題である。
- ・SAPICA の普及を見きわめてウィズユーカードをやめる。両方を並行していけばそのうち SAPICA に移行する、というのは、政策としては良くない。ウィズユーカードへの切替について、早目の判断が必要だと思う。

■子供への啓発活動を行うこと

- ・啓発活動に本腰を入れるなら、小学校で必ず全校、全学年に、いかに公共交通機関がすばらしく、環境問題の中で必要かということを啓発していかなければならないと思う。

■市電車両の導入方法を検討できないか

- ・市電の車両は、まとめて導入するから安くしてほしいとメーカーに交渉することは可能である。計画を立てて行えば、コスト面でメリットがあるのではないかと。

■利用者減少に対する取組を進めること

- ・市電やバスは、利用者が少ないところでも、その地域の住民には必要であり、また都市機能としても一定程度維持すべきだと思われる。多くの税金が投入される問題であるため、さらなる市民理解のために、しっかりと説明すべきではないかと。

(3) ワークショップを通じて

ワークショップに参加した市民の方からは、公共交通への関心の高さを感じるとともに、比較的、男性の関心がより高く、今回のテーマとなった公共交通の将来像を見据えながら、公共交通の利用者をしっかりと確保していくためには、どのようにより一層利用しやすくするかという観点からの意見が多く出された。

特に、身近な公共交通機関であるバスの利便性の確保に関して、施設設備をはじめ、わかりやすい案内表示や路線の見直しなど、具体的な提案があった。

また、意見交換においては、公共交通の状況が異なっている郊外部と都心部の両方の立場から、どうあるべきかを議論しており、広い視点から問題点を捉えていることが印象的であった。

ワークショップでは、市民の柔軟な発想から、具体的なアイデアの提案がなされており、一見すると、市としては、実現が困難と判断してしまう事柄もあると思われるが、委員会としては、市が実現を目指して真剣に検討を進めるように促す役割があると考えている。

委員会では、これらの点を踏まえて、次のとおり評価結果をまとめ、指摘を行った。